

IV . 円海山近郊緑地特別保全地区の将来像

「II. 円海山周辺の緑地の現状」「III. 近郊緑地特別保全地区の将来像の基本的な考え方」を踏まえ、円海山近郊緑地特別保全地区のゾーニングと目標植生を以下のように設定する。

1 . ゾーニング

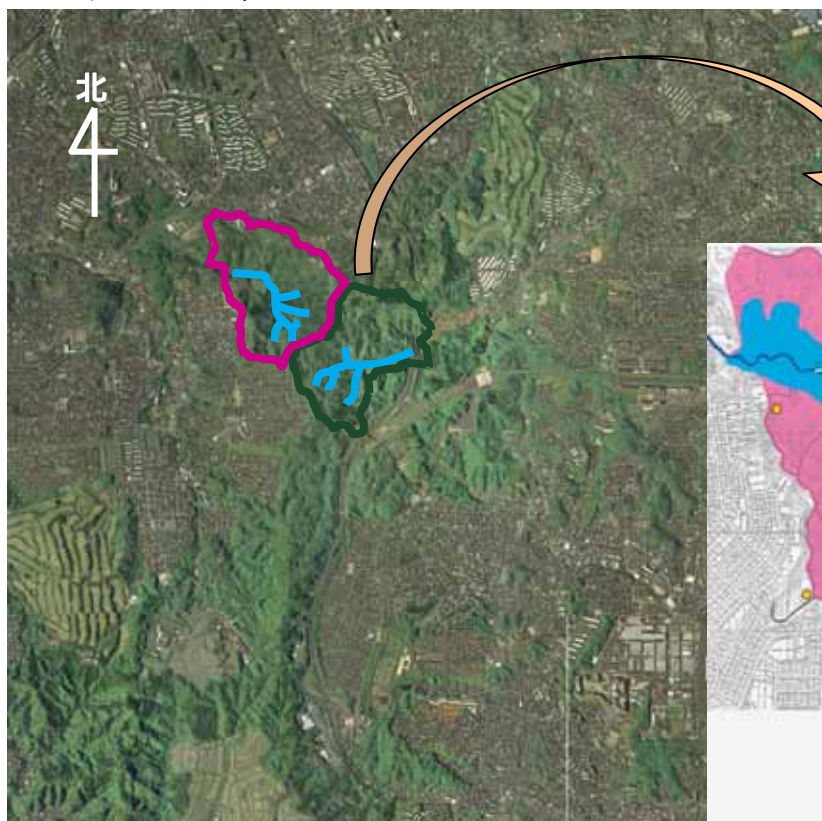


図 17 . 円海山周辺の緑地の中にある近郊緑地特別保全地区とゾーンの配置

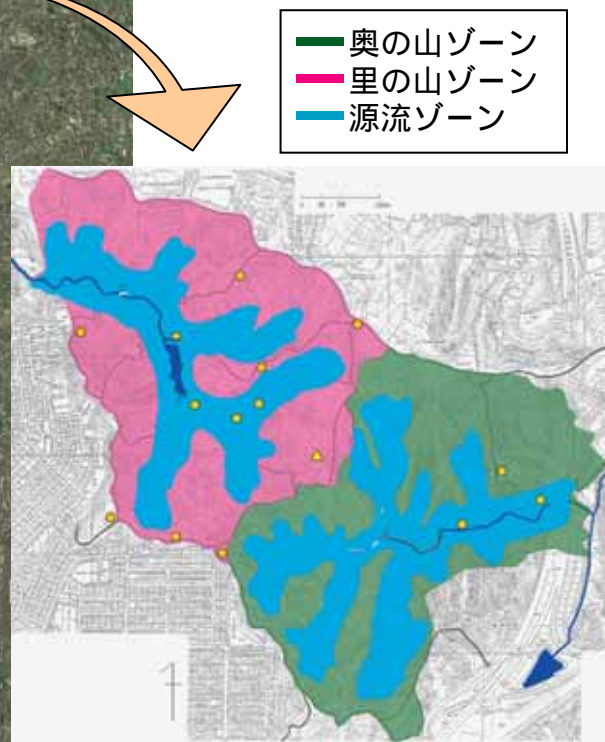


図 18 . 近郊緑地特別保全地区のゾーニング

ゾーンごとの目標

(1) 奥の山ゾーン

目標：緩い斜面および平らな尾根の常緑樹林と急斜面の落葉樹林を主体とし、一部に針葉樹林のある、横浜最大の緑地の中心に位置する、本来の自然に近い林を好む生物のすむ環境。

(2) 里の山ゾーン

目標：様々な林齢の落葉樹林を主体とし、一部に混交林や、針葉樹林・竹林・草地などの様々なモザイク状の環境がある、里山の生物がすむ環境。

(3) 源流ゾーン

目標：奥の山ゾーンと里の山ゾーンの両ゾーンにある、2つの沢の源流の水域とその周囲の湿地および斜面林。水生生物や湿地性植物の生息場所であり、動物が安心して利用できるよう、隠れ場（草丈の高い草・低木）が近くにある環境。

2. 近郊緑地特別保全地区の将来の目標植生

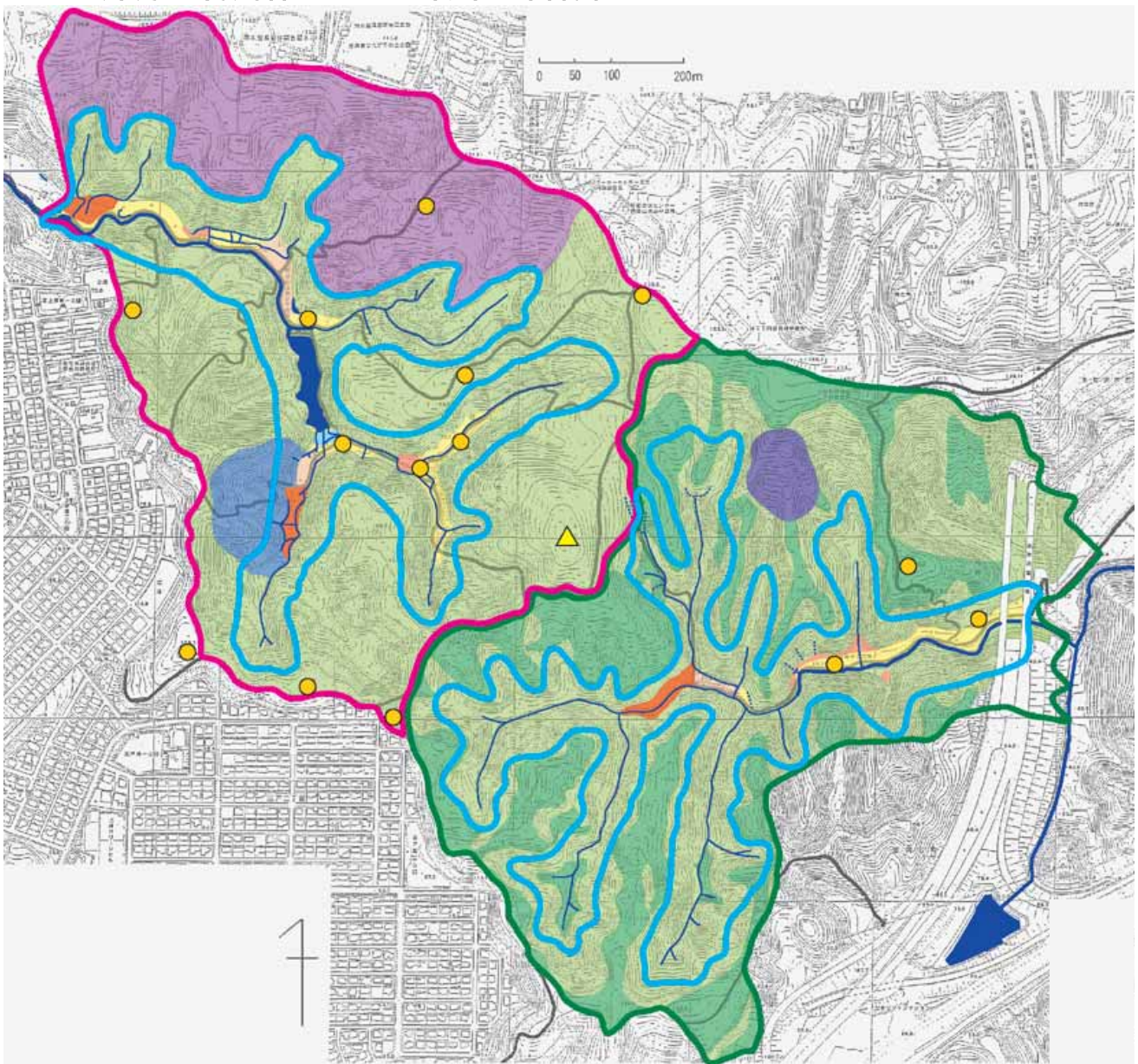


図 19. 近郊緑地特別保全地区の目標植生

< 目標植生 >		
樹林	湿った草地	エリア
■ 常緑樹林	■ 草丈の低い(20cm以下)草地	■ モザイクエリア
■ 落葉樹林	■ 草丈の中位(20~100cm)の草地	
■ 針葉樹林	■ 草丈の高い(1m以上)草地	
■ 混交林	■ その他の草地	
■ 湿地性樹林		
< その他記号 >		
■ 奥の山ゾーン	■ 里の山ゾーン	■ 源流ゾーン
▲ 源流の山	● 休憩所・広場	■ 散策路
	■ 池	■ 川・沢
		■ 雨量が多い時に流れる沢

この目標植生は、100年以上先の将来の目標である。

3. ゾーン別の保全管理の目標

(1) 奥の山ゾーン

目標：緩い斜面および平らな尾根の常緑樹林と急斜面の落葉樹林を主体とし、一部に針葉樹林のある、横浜最大の緑地の中心に位置する、本来の自然に近い林を好む生物のすむ環境。

目標とする景観イメージ

奥山的な林の中を通る、道沿いに大木の多い、山の奥深さを感じることでできる散策路があり、また、大岡川の始まりの細い源流沿いには、両側を急な谷に囲まれた、谷の深さを感じることでできる散策路がある。

目標植生

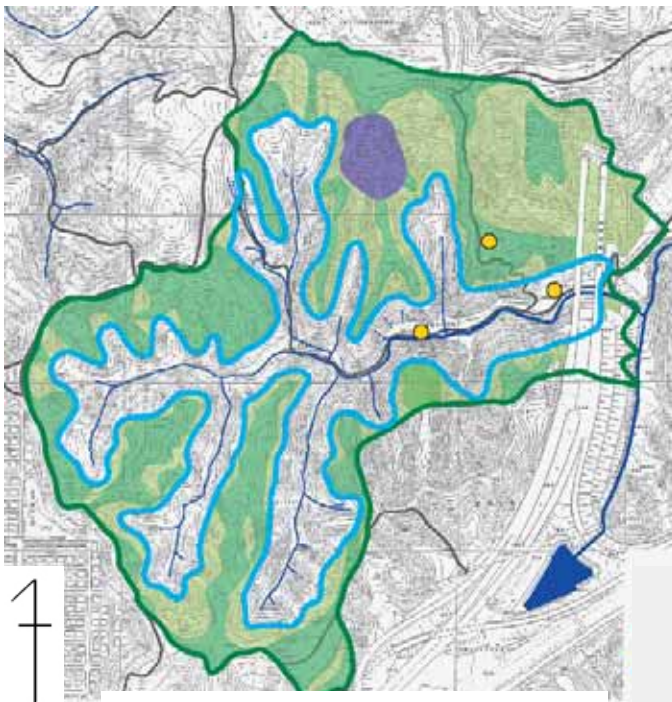


図 20 . 奥の山ゾーンの目標植生

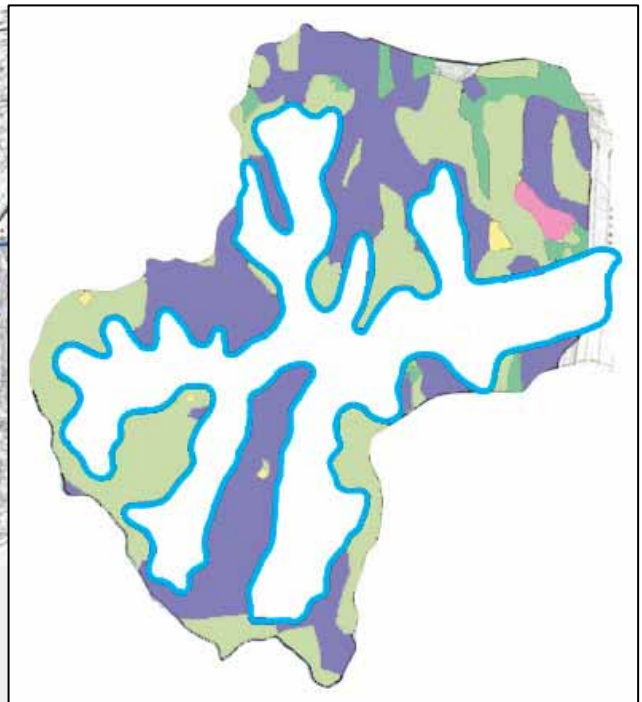
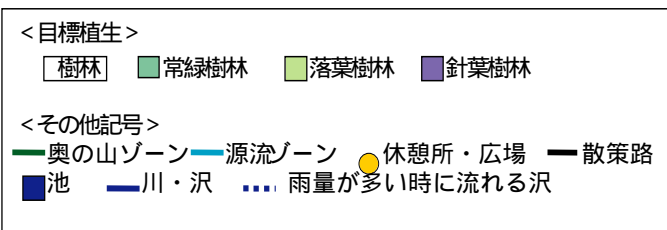
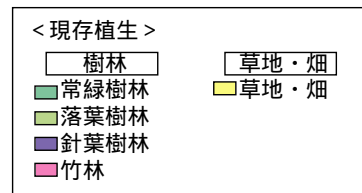


図 21 . 2004 年の奥の山ゾーン現存植生
「横浜市円海山近郊緑地における 22 年間の植生変遷」(川瀬悟 2005)より改変



目標とする環境と現況

場所	目標植生	目標とする植物	目標とする その他の生物	現在の植生
緩やかな斜面、 尾根部の平地	常緑樹林 ■	(イノデ - タブノキ群集、 ヤブコウジ - スダジイ群集) シロダモ、アカガシ、アラカシ、ヤブツバキ、ジャノヒゲ、ヒサカキ、モチノキ、イタビカズラ、ピナンカズラ、キツタ、テイカカズラ、イヌビワ、タシロラン、ウラシマソウ	サンコウチョウ アオゲラ、クロジ ヤマトヒバリ、モンキアゲハ、コジャノメ、ムラサキシジミ(アカガシ・アラカシ)、ホシベニカミキリ(タブノキ)、サシゲチビタマムシ(スダジイ)	落葉樹林 落葉常緑混交林 針葉樹林 (スギ・ヒノキ)
急斜面	落葉樹林 ■	(イロハモミジ - ケヤキ群集) コクサギ、アブラチャン、エンコウカエデ、カントウカンアオイ	オオルリ、ヤブサメ、キビタキ、ルリビタキ、センダイムシクイ、オナガアゲハ(コクサギ)、ゴイシジミ(ササ)	落葉樹林 針葉樹林 (スギ・ヒノキ)
かつて地元中学生が植林した場所	針葉樹林 ■	大径木スギ林 リョウメンシダ、ヤブミョウガ、他シダ類	ククイタダキ、クロジ、サンコウチョウ、スギカミキリ、ヒメスギカミキリ、ヒナカマキリ	針葉樹林 (スギ・ヒノキ)

*「目標とする生物」は環境の指標となる種で、見つけたら残したい種のうち、見分けやすい種を選定。移動する生物は、他の環境で見ることもある。

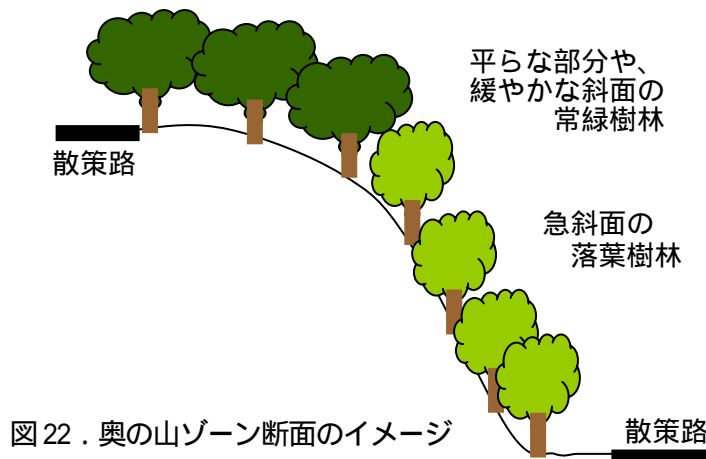


図 22 . 奥の山ゾーン断面のイメージ

目標設定の根拠

- ・ 常緑樹林：将来、常緑樹林を目指す場所は、現在常緑樹が多く、樹林の遷移が進んでいる。地形の平らな部分や緩やかな斜面では、常緑樹林にまで遷移することが可能なため、この土地本来の自然樹林である、常緑樹林まで遷移させる。
- ・ 急斜面：常緑樹林にまでは遷移せず、湿り気のある土地に生える落葉樹林（イロハモミジ・ケヤキ群集）に遷移する可能性が高いため、落葉樹林を目標植生とする。
- ・ スギ林：スギ林は植林だが、生物多様性保全のためには、スギ林の林床に生えるシダなどの植物も保全する。そこで、かつて地元住民と中学生とで植林した場所を管理して保全する。なお、ヒノキ林は、林床に植物が生えにくいいため、スギ林を目標植生とする。

(2) 里の山ゾーン

目標：様々な林齢の落葉樹林を主体とし、一部に混交林や、針葉樹林・竹林・草地などの様々なモザイク状の環境がある、里山の生物がすむ環境。

目標とする景観イメージ

奥の山ゾーンとの境を横切る散策路は、片側を常緑樹林、片側を落葉樹林に囲まれ、また、源流の谷の風景を見ることのできる場所がある。谷道沿いにはスギの大木や湿った場所を好む植物がある。

目標植生

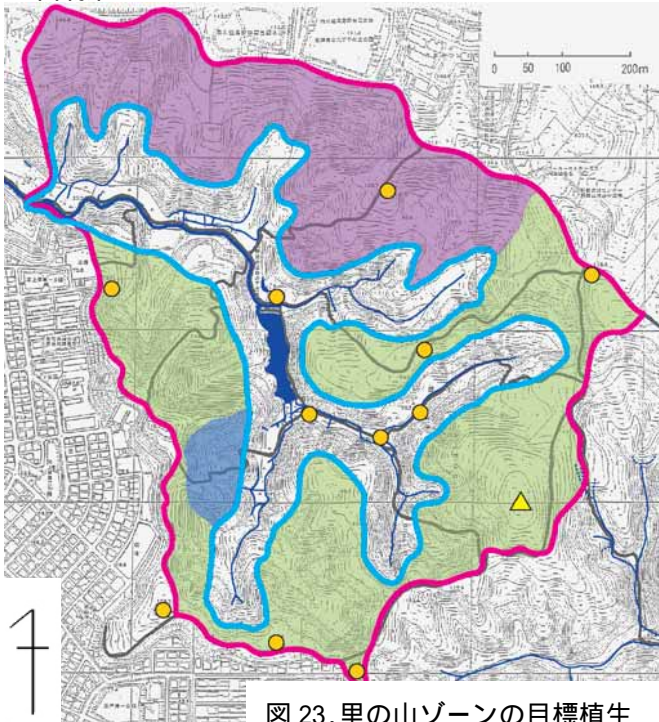


図 23. 里の山ゾーンの目標植生

- < 目標植生 >
- 樹林
 - 常緑樹林
 - 落葉樹林
 - 混交林(常緑樹・落葉樹)
 - エリア
 - モザイクエリア
- < その他記号 >
- 里の山ゾーン
 - 源流ゾーン
 - 源流の山
 - 休憩所・広場
 - 散策路
 - 池
 - 川・沢
 - 雨量が多い時に流れる沢

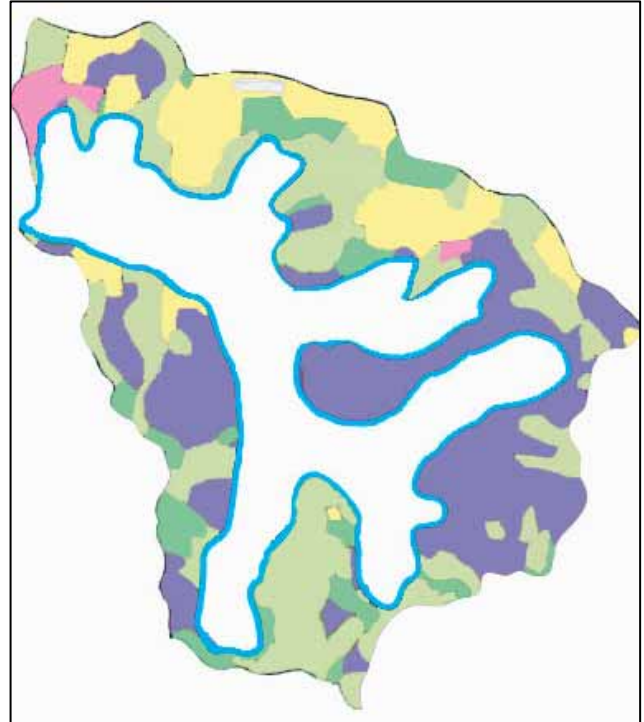


図 24. 里の山ゾーンの現存植生

「横浜市円海山近郊緑地における 22 年間の植生変遷」(川瀬悟 2005)より改変

- < 現存植生 >
- 樹林
 - 常緑樹林
 - 落葉樹林
 - 針葉樹林
 - 竹林
 - 草地・畑
 - 草地・畑

目標とする環境と現況

場所	目標植生	目標とする植物	目標とするその他の生物	現在の植生
落葉樹林	落葉樹林 (急斜面・谷部・湿った樹林)	(イロハモミジ - ケヤキ群集) コクサギ、アブラチャン、エンコウカエデ	オオルリ、ヤブサメ キビタキ、ルリビタキ センダイムシクイ オナガアゲハ(コクサギ)	針葉樹林 (スギ・ヒノキ) 針葉落葉混交林
	落葉樹林 (尾根部・平らな部分・緩やかな斜面・乾いた樹林)	コナラ、ヤマザクラ、オオシマザクラ、ガマズミ、ムラサキシキブの仲間、スハマソウ、リンドウ、イチリンソウ、ニリンソウ、イチヤクソウ、ウグイスカグラ、クロモジ、ハナイカダ	タヌキ、イタチ、フクロウ、オオタカ、ウグイス、ホトトギス、センダイムシクイ、オオミドリシジミ、アカシジミ、ゴマダラチョウ、モンキアゲハ、カラスアゲハ、ウラナミアカシジミ、シロスジカミキリ	落葉樹林
混交林	落葉常緑混交林	アワブキ、シロダモ、キンラン、ギンラン、カンアオイ	オオルリ アオバセセリ(アワブキ) 常緑樹林・落葉樹林の生物	落葉常緑針葉混交林

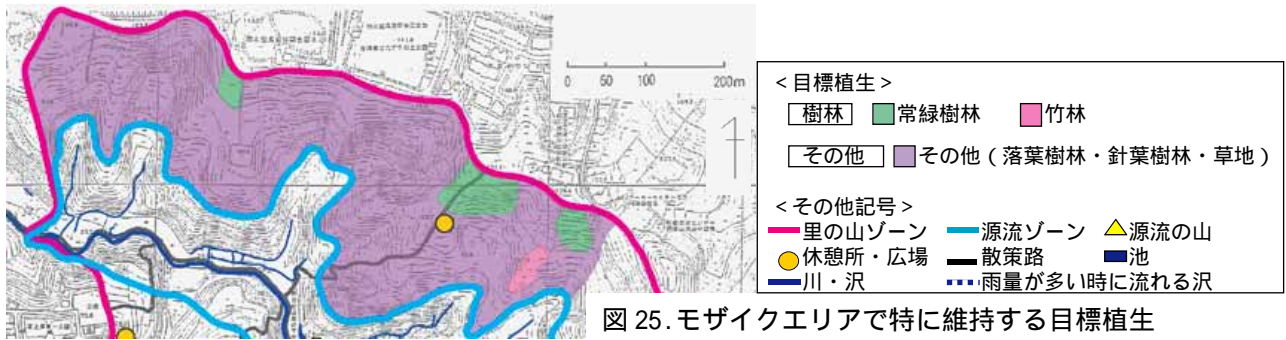


図 25. モザイクエリアで特に維持する目標植生

目標とする環境と現況

場所	目標植生	目標とする植物	目標とするその他の生物	現在の植生
モザイクエリア	常緑樹林	大径木のスダジイ、アカガシ	奥の山ゾーン常緑樹林参照	常緑樹林
	落葉樹林	(ヌルデ・ヤマグワ群落、アカメガシワ・ミズキ群落、ヤツデ・カラスザンショウ群落、オニシバリ・コナラ群集) ヌルデ、ヤマグワ、ヤツデ、カラスザンショウ、アカメガシワ、コナラ、エンコウカエデ、エゴノキ、ヤマザクラ、オオシマザクラ、ウグイスカグラ、ヤマツツジ、ヤマテリハノイバラ	上記落葉樹林参照	畑・落葉樹林
	針葉樹林	大径木スギ	奥の山ゾーン針葉樹林参照	針葉樹林 (スギ・ヒノキ)
	竹林 草地 (草丈の高い草地・低い草地)	モウソウチク 【草丈の高い草地】 ススキ、ナンバンギセル 【草丈の低い草地】 スゲ・カヤツリグサ・シバの仲間、チヂミザサ	ベニカミキリ 【草丈の高い草地】 カヤヒバリ、カヤキリ ジャノメチョウ クロコノマチョウ ギンイチモンジセセリ 【草丈の低い草地】 ベニシジミ、エンマコオロギ ミツカドコオロギ 【草地全般】ノウサギ、モズ、フクロウ カンタン(クズなど) クツワムシ(低木・ツル) キタテハ チョウセンカマキリ	竹林 畑

* 「目標とする生物」は環境の指標となる種で、見つけたら残したい種のうち、見分けやすい種を選定。移動する生物は、他の環境で見られることもある。

目標設定の根拠

- ・ 落葉樹林：・源流部の樹林であるため、山を乾燥させないように、谷部や、現在スギ林で、林床にシダの多い湿った土地は、湿った落葉樹林(イロハモミジ・ケヤキ群集)を目標植生とする。また、急斜面は、常緑樹林にまでは遷移せず、湿り気のある土地に生える落葉樹林(イロハモミジ・ケヤキ群集)に遷移する可能性が高いため、この群集に生える落葉樹の樹林を目標植生とする。
・尾根部・平らな部分・緩やかな斜面や乾いた樹林では、乾いた土地に生える落葉樹林を目標とする。
- ・ 混交林：常緑樹と落葉樹の大木、希少な落葉樹などが混ざって生えている、近郊緑地特別保全地区の中には他にない林相であるため、生物多様性保全のために環境を多様にするを目的として、他と異なる樹林環境を保全する。
- ・ モザイクエリア：現在、小規模の常緑樹林・落葉樹林・畑・竹林・針葉樹林が混在している。将来も、これらの環境を混在させることで生物の多様性を保全する。

(3) 源流ゾーン

目標：奥の山ゾーンと里の山ゾーンの両ゾーンにある、2つの沢の源流の水域とその周囲の湿地および斜面林。水生生物や湿地性植物の生息場所で水場もあり、動物が安心して利用できるよう、隠れ場（草丈の高い草・低木）が近くにある環境。

目標とする景観イメージ

奥の山ゾーンには、周囲を林に囲まれた谷深い大岡川の源流である氷取沢があり、峡谷の清流の雰囲気を楽しむことができる。里の山ゾーンには、上空の開けた広い谷底を通るいたち川の源流である瀬上沢がある。瀬上沢上流には、止水性の生物が見られるため池があり、その下流には湿地性植物の広い草地が続き、周囲を落葉樹林で囲まれた谷戸の風景が広がる。これら2つの源流には湿地性の植物が見られ、流れには源流に特有の魚などの水生生物が見られる。

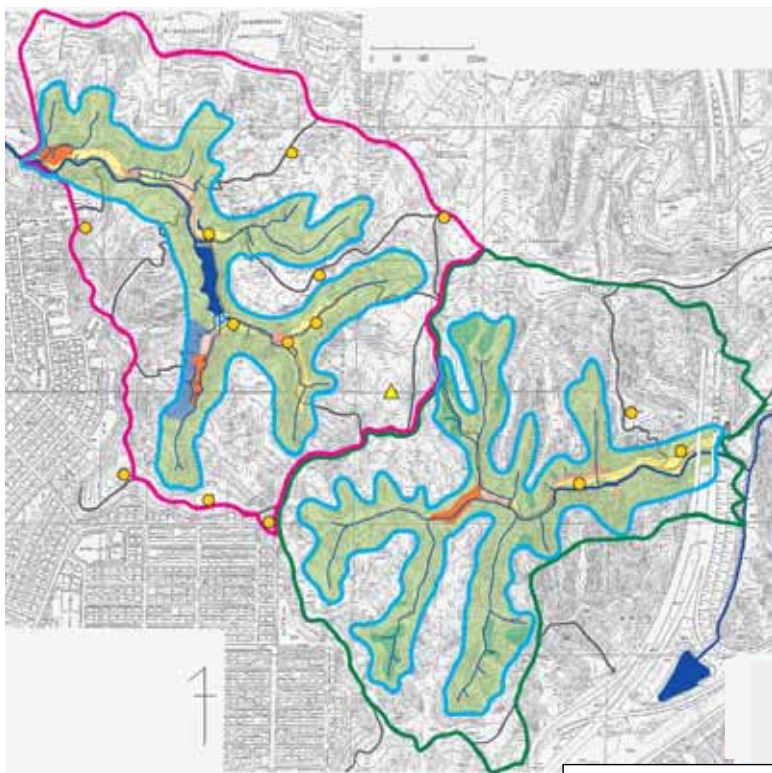


図 26 . 源流ゾーン全体の目標植生

< 目標植生 >	
樹林	湿った草地
■ 常緑樹林	■ 草丈の低い(20cm以下)草地
■ 落葉樹林	■ 草丈の中位(20~100cm)の草地
■ 混交林	■ 草丈の高い(1m以上)草地
■ 湿地性樹林	■ その他の草地
< その他記号 >	
■ 奥の山ゾーン	■ 里の山ゾーン
■ 源流ゾーン	■ 源流の山
● 休憩所・広場	■ 散策路
■ 池	■ 川・沢
■ 雨量が多い時に流れる沢	

目標植生・目標生物など：源流ごとに後述

源流ゾーン全体の目標設定の根拠

- ・ 沢沿い：急斜面に囲まれた沢沿いに希少な生物が多いため、基本的に、環境を改変しない場所とする。
- ・ 急斜面：自然に遷移させると、湿った土地に生える落葉樹の樹林（イロハモミジ・ケヤキ群集）になる可能性が高い、また、水生生物の食物源として重要な落葉樹の樹林を目標植生とする。

ア 奥の山源流の湿った草地

目標植生



図 27 . 奥の山源流の湿った草地の目標植生

< 目標植生 >		< その他記号 >	
湿った草地	樹林	— 奥の山ゾーン	— 源流ゾーン
■ 草丈の低い(20cm以下)草地	■ 常緑樹林	▲ 源流の山	● 休憩所・広場
■ 草丈の中位(20~100cm)の草地	■ 落葉樹林	— 散策路	■ 池
■ 草丈の高い(1m以上)草地		— 川・沢	⋯ 雨量が多い時に流れる沢
■ その他の草地			

奥の山源流の湿った草地の目標とする環境と現況

場所	目標植生	目標とする植物	目標とするその他の生物	現在の植生
湿った草地	草丈20cm以下	イボクサ、ミソカクシ、コケの仲間	ミソゴイ、ケラ、キアゲハ 止水：ヤマアカガエル、ヒキガエル、ヘイケボタル、アカトンボ属、シオヤトンボ、タカネトンボ、ヤスマツアメンボ、クロスジギンヤンマ	草丈の低い湿った草地
	草丈20-100cm	ミソソバ、ツリフネソウ、タコノアシ、ミズタマソウ	クイナ、キンヒバリ	中位の草丈の湿った草地
	草丈1m以上	ガマ、ヨシ、シロバナサクラタデ、ツリフネソウ、ミソソバ		
	その他の草地	* 図38参照	【湿った草地】キアゲハ、ケラ(草丈低)、キンヒバリ(草丈高) 止水：ヘイケボタル、タカネトンボ、ヤスマツアメンボ、クロスジギンヤンマ、アカトンボ属、シオヤトンボ 【乾いた草地】 草丈高：クロコノマチョウ、ギンイチモンジセセリ、ジャノメチョウ 草丈低：エンマコオロギ 草地全般：クツワムシ(低木・つる)、カンタン(クス)、キタテハ、チョウセンカマキリ	様々な湿り具合の草地
川・沢		ヨゴレネコノメ、ヤマネコノメ	オオルリ、コサギ、キセキレイ、ホトケドジョウ、アブラハヤ、シマヨシノボリ、ゲンジボタル、ハゲトンボ、ミルヤンマ、コシボソヤンマ、オニヤンマ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、モンキマメゲンゴロウ、サワガニ、モクスガニ、テナガエビ	
急斜面	落葉樹林	* 奥の山ゾーン落葉樹林参照	オナガアゲハ、* 奥の山ゾーン落葉樹林参照	落葉樹林

* 「目標とする生物」は環境の指標となる種で、見つけたら残したい種のうち、見分けやすい種を選定。移動する生物は、他の環境で見られることもある。

目標設定の根拠

- ・ ~ 草地：源流沿いの草地は、現在様々な湿り具合になっており、それによって、様々な植生の草地となっているため、現状を維持する。現状の目安を、4つの区分に示した。
- ・ 草丈1m以上の草地：現在は の草丈の草地であるが、平地で最も上流に位置し、水分量の多い草地を、より生物の多様性を高めるために、草丈の高い草地と、そのような草地特有の生物が生息する場所とする。

イ 里の山源流の湿った草地

目標植生

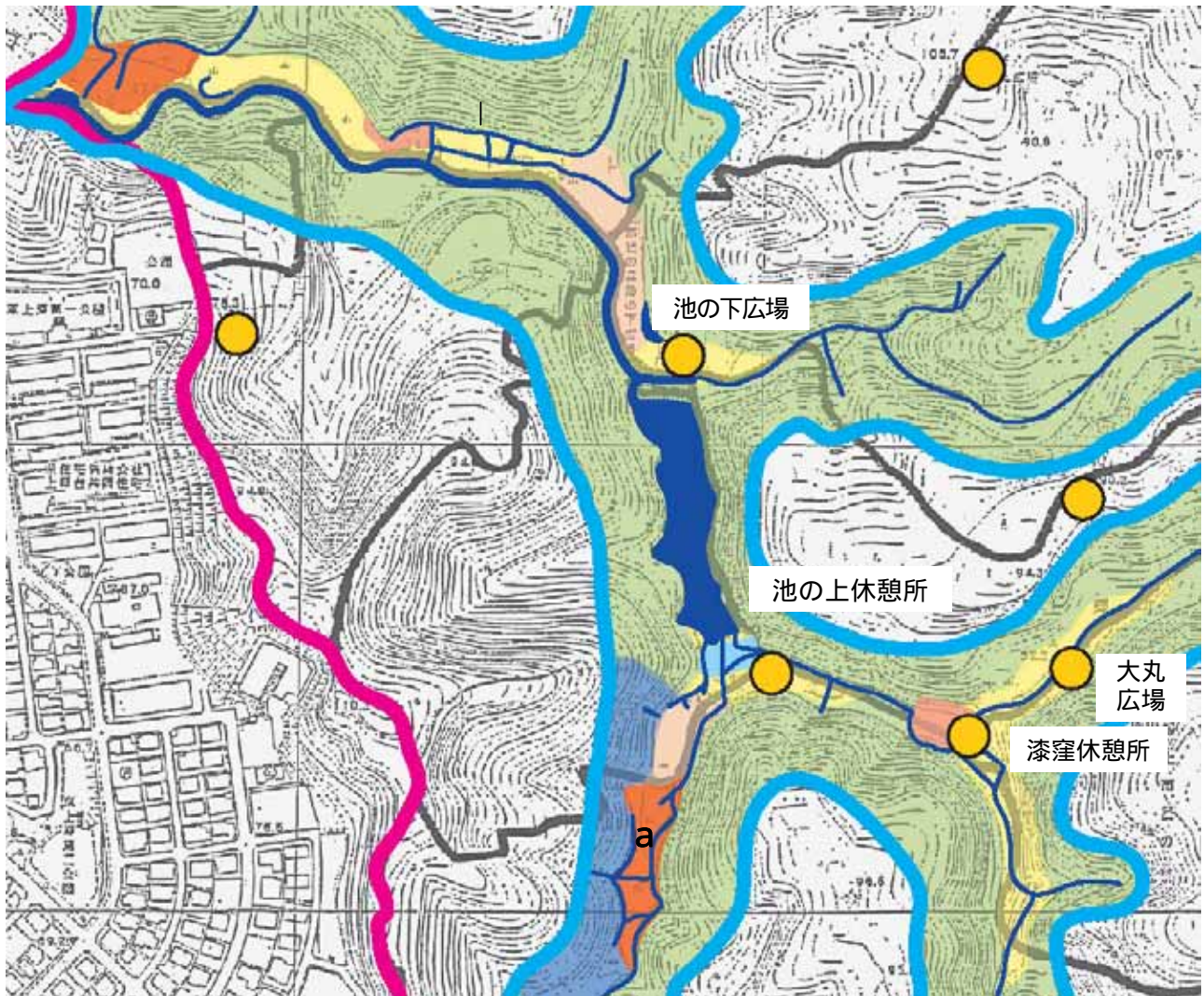









図 28 . 里の山源流の湿った草地の目標植生

< 目標植生 >		< その他記号 >	
湿った草地		里の山ゾーン	
草丈の低い(20cm以下)草地	樹林	源流の山	源流ゾーン
草丈の中位(20~100cm)の草地	落葉樹林	散策路	休憩所・広場
草丈の高い(1m以上)草地	混交林	川・沢	池
その他の草地	湿地性樹林		雨量が多い時に流れる沢

里の山源流の湿った草地の目標とする環境と現況

場所	目標植生	目標とする植物	目標とするその他の生物	現在の植生
湿った草地	草丈20cm以下 	イボクサ、ミゾカクシ、コケ類	ミソゴイ、ケラ、キアゲハ 止水：ヤマアカガエル、ヒキガエル、ヘイケボタル、アカトンボ属、シオヤトンボ	草丈低い湿った草地
	草丈20-100cm 	ミソソバ、ツリフネソウ、タコノアシ、ミズタマソウ	クイナ、キンヒバリ	中位の草丈の湿った草地
	草丈1m以上 	ガマ、ヨシ、シロバナサクラタデ、ツリフネソウ、ミソソバ	【湿った草地】キアゲハ、ケラ、キンヒバリ 止水：ヤマアカガエル、ヒキガエル、ヘイケボタル、アカトンボ属、シオヤトンボ 【乾いた草地】 草丈高：ホオジロ、クロコノマチョウ、ギンイチモンジセセリ、ジャノメチョウ 草丈低：エンマコオロギ 草地全般：クツムシ(低木・つる)、カンタン(クズ)、キタテハ、チョウセンカマキリ	草丈高い湿った草地
	その他の草地 	* 図38参照		様々な湿り具合の草地
湿地性樹林	湿地性樹林 	ヤナギの仲間、ハンノキ	ハンノキハムシ	
川・沢		ヨゴレネコノメ ヤマネコノメ	オオルリ、コサギ、キセキレイ、ホトケドジョウ、アブラハヤ、シマヨシノボリ、ゲンジボタル、ハクロトンボ、ミルンヤンマ、コシボソヤンマ、オニヤンマ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、モンキマメゲンゴロウ、サワガニ、モクスガニ、テナガエビ	
池		コガマ、カンガレイ、サンカクイ、ホタルイ	ヤマアカガエル、ヒキガエル、カルガモ、カイツブリ、ギンヤンマ、コシアキトンボ、シヨウジョウトンボ、ウチワヤンマ、イシガイ、ヌカエビ、トウヨシノボリ	
急斜面	落葉樹林 	* 奥の山ゾーン落葉樹林参照	オナガアゲハ(コクサギ) * 奥の山ゾーン落葉樹林参照	落葉樹林
混交林	混交林 	* 里の山ゾーン混交林参照	* 里の山ゾーン混交林参照	混交林

*「目標とする生物」は環境の指標となる種で、見つけたら残したい種のうち、見分けやすい種を選定。移動する生物は、他の環境で見ることもある。

目標設定の根拠

- ・ ~ 草地：源流沿いの草地は、現在様々な湿り具合になっており、それによって、様々な植生の草地となっているため、現状を維持する。目安として、現状を4区分に示した。
- ・ 草丈の高い草地：特に湿った草地の1つであり、ヨシ・ガマがまとまって生えている。近郊緑地特別保全地区の中にヨシ・ガマがまとまっている場所は稀であるため、これらの種を目標植生として、維持、保全していく。
- ・ 草丈の低い草地：特に湿った草地の一部には、コケ類の豊富な場所があるため、草丈を低く管理して、コケ類が生えやすい環境を維持していく。
- ・ 湿地性樹林：瀬上池上流の樹林は、近郊緑地特別保全地区内で他の場所には生育していない湿地性の樹木が生えているため、現状を維持、保全する。